

市町村名		豊見城市					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	観光振興地域環境美化強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-工	
担当部署名	経済建設部 道路課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	南国沖縄らしい景観や、魅力ある観光地づくりを図るため、大型商業施設及び宿泊施設などが所在する豊崎、瀬長地域の市道植樹樹の除草清掃や、プランターの植栽管理を行い美化強化に努め、魅力ある観光地づくりに取り組む。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
		(b) 予算現額	6,105	6,200	6,200	6,200	6,200
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	6,105	6,200	6,200	6,200	6,200
	B. 執行済額		6,105	6,200	6,200	6,200	6,200
	うち交付金充当額		4,884	4,960	4,960	4,960	4,960
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	予算の状況の説明		事業計画どおりに執行を行った。				
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	植栽樹の管理1,385樹(2回、除草清掃・防除工)	目標	(植樹樹の除草・清掃)	(植樹樹の除草・清掃)	(植樹樹の除草・清掃)	(植樹樹の除草・清掃)	
		実績	植樹樹の除草・清掃	植樹樹の除草・清掃	植樹樹の除草・清掃	植樹樹の除草・清掃	
	プランターの植栽管理464個	目標	(プランターの植栽管理)	(プランターの植栽管理)	(プランターの植栽管理)	(プランターの植栽管理)	
実績		プランターの植栽管理	プランターの植栽管理	プランターの植栽管理	プランターの植栽管理		
達成状況説明	・瀬長島、豊崎地区の植栽樹1,385樹(交差点改良工事により2樹減少)の抜根除草及び除草剤散布等を行った。 ・平成25年度に設置したプランター464個への灌水等を実施し植栽管理を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	魅力的な観光地としての景観形成を図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		70%	81%	74%	
	【参考指標】 ・植樹樹の除草清掃	目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	植樹樹・プランター等についてのアンケート調査を、年度末の3月に本市の主要観光地である豊見城市観光プラザにて実施した。39名からの回答を集計した結果、74%が「魅力的な観光地の景観である」と回答し、目標値である80%にはわずかに届かなかった。前年度からの改善として、枯損木や空いているプランターについて、ミニサンダンカを補植し、南国沖縄らしい景観づくりを図った。また、市作業員にて投棄されたゴミの回収作業を行った。						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査の結果について「魅力的な観光地の景観である」との回答が74%となっているため、適正に植栽を管理する必要がある。 補植したコバサンダンカが咲いていなかったため、しっかり咲くように対策する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要以上に成長し、繁茂した草花について剪定を検討する。 補植したばかりでまだ根付いていないと思われるため、成長するように灌水を検討する。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 専門業者により見栄えよく、草花が枯れないように剪定を行う。 補植したコバサンダンカが枯れないように、業務委託期間以外(3月～6月下旬)でも市で灌水を行う。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
6,200	6,200	4,960	1,240	0



・植樹樹の除草清掃及びプランターへの灌水等に係る委託業務

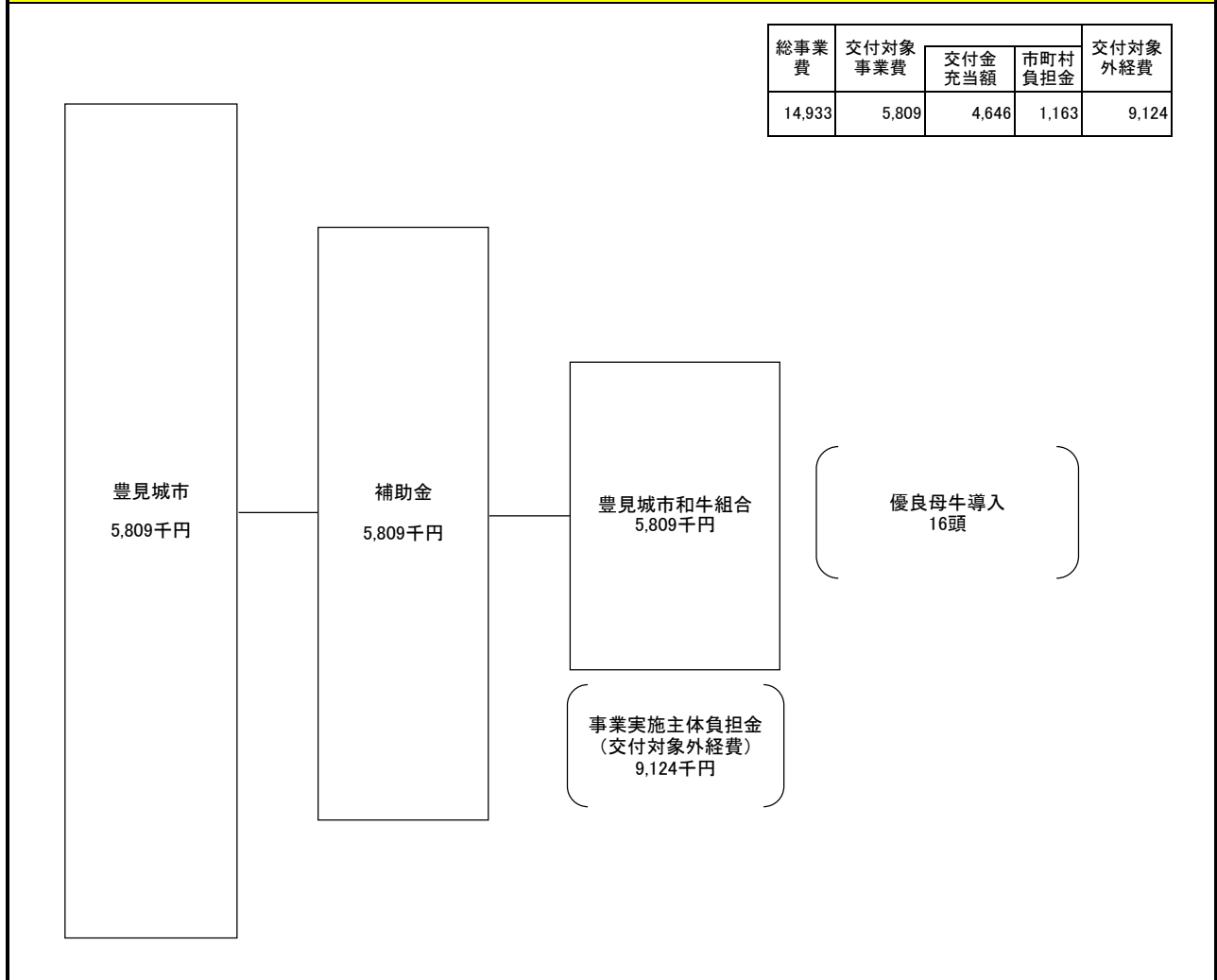
資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○委託事業者は指名競争入札により決定しており、妥当であったと考えられる。 ○予算規模は積算基準等に基づいて編成しており、適正であったと考えられる。 ○費用・用途について委託業務に必要な除草清掃費用、プランター灌水費用を計上しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	優良母牛導入支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-(ア)	
担当部署名	経済建設部 農林水産課	事業実施(予定)年度	平成27年度～令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	優良母牛の導入を促進し、畜産農家の資産基盤の確立及び経営の安定、農業振興を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,000	6,000	6,400	6,400	6,400
		(b) 予算現額	6,000	5,719	6,011	6,152	5,809
		(c) 増減額(b-a)	0	▲281	▲389	▲248	▲591
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		6,000	5,719	6,011	6,152	5,809
	B. 執行済額		5,837	5,719	6,011	6,152	5,809
	うち交付金充当額		4,669	4,574	4,808	4,921	4,646
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		97.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		・計画していた事業内容を実施しており活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えられる。 ・セリ市場で優良母牛を安く落札できたため執行額が減った。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	優良母牛導入に対する補助		目標 (補助)	(補助)	(補助)	(補助)	
			実績	補助	補助	補助	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	牛のセリ価格が高騰傾向にある中、家畜セリ上場頭数の情報共有化及び県内外での購入を行うことによりスムーズに対応することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合		目標 ()	(110%)	(110%)	(110%)	()
			実績	119%	113%	116%	
	【参考指標】優良母牛導入数		目標 ()	(16頭)	(16頭)	(16頭)	()
			実績	16頭	16頭	16頭	
進捗状況説明	令和2年度において合計16頭導入し、5ヶ年導入実績93頭となった。また導入牛から生まれた子牛の平均価格が744,309円、そうでない子牛の平均価格が640,971円となっており、成果目標を達成することができた。 ・6月沖縄県(今帰仁セリ市場)2頭 ・7月沖縄県(与論セリ市場)1頭 沖縄県(南部セリ市場)1頭 ・8月沖縄県(南部セリ市場)1頭 ・9月沖縄県(南部セリ市場)2頭 ・11月沖縄県(南部セリ市場)1頭 ・12月沖縄県(南部セリ市場)1頭 沖縄県(多良間セリ市場)1頭 鹿児島県(与論セリ市場)1頭 ・1月沖縄県(八重山セリ市場)1頭 鹿児島県(曾於セリ市場)2頭 ・2月沖縄県(南部セリ市場)2頭						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>毎年成果目標を上回る結果となっている。市、JA、改良協会等関係機関で農家への指導、情報共有が図られ、農家の技術力向上に寄与されていると考えられる。</p> <p>しかし、新型コロナウイルスの影響で共進会等イベントの中止など、農家間のコミュニケーションが希薄化していることから、関係機関から情報提供等を積極的に行っていくことで、農家の技術力向上を高め、子牛のセリ価格上昇を推進していく。</p>	<p>出荷時に高値がつくようにセリ結果などから血統の情報の更新や共有を行い、優良種雄牛の種付けにつながる対応が望まれる。</p>

今後の取り組み方針
<p>市、JA、改良協会等関係機関で衛生環境指導や飼育管理指導等専門的な知識の共有を図り和牛群改良を推進していく。</p>

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業実施主体は、補助金交付要綱により適正に事業実施している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である豊見城市和牛組合は総事業費の5割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に則し、必要なものであったと判断した。

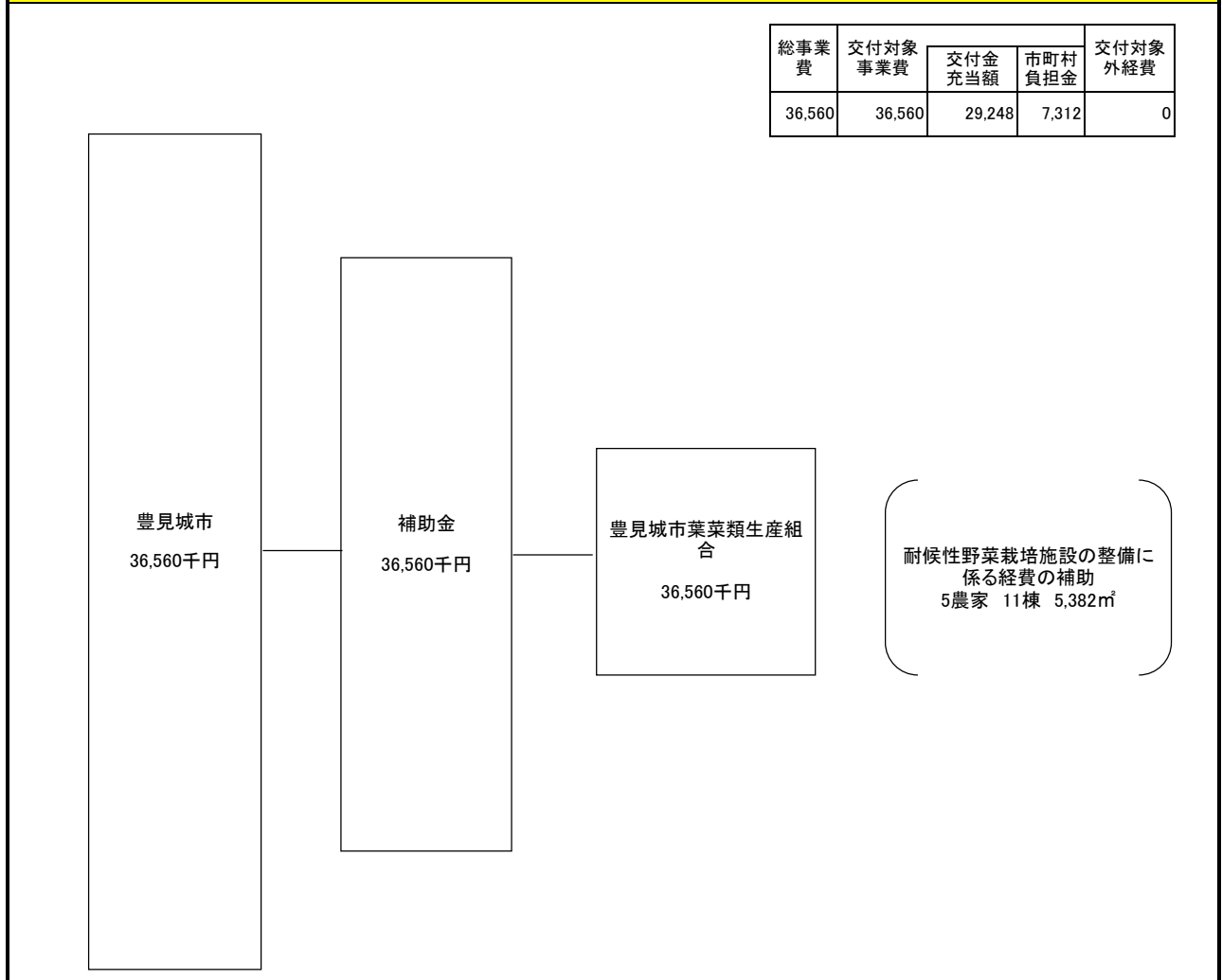
市町村名	豊見城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	豊見城市いきいき野菜生産支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア		
担当部署名	経済建設部 農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	豊見城市産野菜について、市場や量販店が求める定時・定量定品質等の安定供給を推進するためにも、天候悪化に左右されない耐候性野菜栽培施設(パイプハウス)を導入する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(3 年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		74,320				38,400
			72,000				38,400
			▲2,320				0
			72,000				38,400
	B. 執行済額 うち交付金充当額		72,000				36,560
			57,600				29,248
	次年度繰越額		0				0
	執行率(%) (B/A)		100.0%				95.2%
	予算の状況の説明	事業計画どおりに執行されており、活動目標、成果目標の達成状況からも適正と考えられる。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)	達成状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	耐候性野菜栽培施設の導入に対する補助	目標	()	()	()	(5,832㎡ 11棟、5農家)	
		実績				5,832㎡ 11棟、5農家	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	耐候性野菜栽培施設(パイプハウス)を、5,832㎡(11棟・5農家)整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(3年度)	
	耐候性野菜栽培施設導入の完了	目標	()	()	()	(100%)	()
		実績				5,832㎡ 11棟、5農家	
	【参考指標】 野菜(葉野菜類)の反収(10aあたりの生産量) ホウレンソウ 1.1t/10a カラシナ 1.3t/10a チンゲンサイ 1.3t/10a	目標	()	()	()	()	ホウレンソウ 1.1t/10a カラシナ 1.3t/10a チンゲンサイ 1.3t/10a
		実績					
	進捗状況説明	強風や長雨等の影響を受けない施設(5戸、11棟、5,382㎡)の設置により、生産農家の経営安定を図るための施設整備が整った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・露地栽培から施設栽培への変更に対応するための、栽培技術等の確立が必要である。 ・事業の目的である安定生産へ向け優良種苗等への転換等も踏まえて調査研究が必要である。 ・市場の動向を注視する必要がある。 ・施設の台風等の自然災害対策が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各留意点については、事業推進会議で現在野菜の施設栽培を行っている生産農家による講習会や、沖縄県農業共済組合の職員による園芸施設共済の説明会を開催することで、情報の共有や新たな栽培技術等を学ぶことが可能となる。

今後の取り組み方針

事業の目的である、安定生産や生産農家の経営安定を図るために、市場の動向をとらえた生産体制を構築し、販売先の確保に取組む。また、令和3年度において事業推進会議を開催し、目的達成に向け努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施主体は、補助金交付要綱により適正に事業実施している。 ・不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ・円滑な事業実施を図る上で妥当である。 ・費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に則し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	特別な支援を必要とする子の巡回相談事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ	
担当部課名	福祉健康部 保育こども園課	事業実施(予定)年度	平成26年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実 Ⅲ-4	
事業内容	市内認可保育施設・私立幼稚園・認可外保育施設における「特別な支援を必要とする子」への保育の充実ときめ細かい対応及び早期発見を図る為、臨床心理士の専門指導員を配置し、巡回相談・支援を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		(a)当初予算額	5,242	5,251	5,259	5,729	3,111
	(b)予算現額	2,969	3,686	5,259	5,729	738	
	(c)増減額(b-a)	▲2,273	▲1,565	0	0	▲2,373	
	(d)繰越額	0	0	0	0	0	
	A.計(b+d)	2,969	3,686	5,259	5,729	738	
	B.執行済額	2,780	3,674	5,131	5,035	0	
	うち交付金充当額	2,223	2,938	4,104	4,028	0	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	93.6%	99.7%	97.6%	87.9%	0.0%	
予算の状況の説明	令和2年度、公認心理士1名を正規職員採用されたことから、会計年度任用職員1名分の人件費等予算確保。しかし、応募がなく一年を通して採用ができなかった為、執行率0%となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)	達成状況					
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	臨床心理士配置:1名	目標	(2人)	(2人)	(2人)	(1人)	
		実績	2人	2人	2人	0人	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	市ホームページや広報への掲載や臨床心理士協会にも募集登録を行ったが、臨床心理士の応募が無く一年を通して採用が出来なかった。(未達成)						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
		臨床心理士への相談により育児や保育に関する不安が軽減されたか(80%以上)を含め、保護者・保育士へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績	保護者:85.3% 保育士:92.6%	保護者:86.4% 保育士:90.2%			
	【参考指標】 「特別な支援を必要とする子」への対応や保護者への相談・支援件数	目標	()	(200件)	(300件)	(200件)	()
		実績		398件	467件	0件	
進捗状況説明	市内保育施設及び入所児童数の増加に伴い、発達の気になる子どもも増加傾向にある。巡回相談においても相談・支援件数が前年よりも更に増えている状況である。令和2年度においては、臨床心理士(会計年度任用職員)が行う巡回相談事業について、正規職員1名が業務を担っており実績値は「0」報告となりますが、引き続き会計年度任用職員の採用に向けて取り組んでいきたい。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>発達が気になる子が年々増加傾向であり、きめ細やかな対応が求められる状況であるため、臨床心理士の採用確保は喫緊の課題であると考え。</p>	<p>ハローワークや市HP及び臨床心理士協会等に引き続き採用募集をかけ、早期に人材確保し、保護者からの相談に対応していく体制を構築する。</p> <p>今年度のように臨床心理士採用がない状況が継続するのであれば、人事課と正規職員枠での採用ができないかを含め、事業のあり方について検討する。</p>

今後の取り組み方針
<p>ハローワークや市HP及び臨床心理士協会等に引き続き採用募集をかけるとともに、処遇面についても検討するなどして継続した雇用が実現できるよう努める。</p>

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
0	0	0	0	0

資金の流 れの点 検・費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	-	支出先の選定方法は妥当か。	○実績がなかったため評価なし。
	-	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	-	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	放課後児童クラブ利用支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ		
担当部課名	福祉健康部 こども応援課	事業実施(予定)年度	令和2年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実 III-4		
事業内容	ひとり親への減免を行っている放課後児童クラブへ一定額の支援を行うことで、保護者の子育てへの負担感の軽減を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,644				
		(b) 予算現額	4,644				
		(c) 増減額(b-a)	0				
		(d) 繰越額	0				
	A. 計(b+d)		4,644				
	B. 執行済額		4,308				
	うち交付金充当額		3,446				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		92.8%				
予算の状況の説明		事業については当初の計画どおり行われ、予算は適正に執行された。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	ひとり親家庭等の児童クラブ利用者へ利用料を減免した児童クラブに対し、補助を行う。		目標 (実施)	()	()	()	
	対象人数:129人		実績	実施			
			目標 ()	()	()	()	
			実績				
達成状況説明	市内児童クラブに登録のあるひとり親世帯対象者135名が減免申請を利用したことに伴い、減免を行った児童クラブ28に対し、4,308千円の補助が市より行われた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	安心・安全に子どもを預けることができ、子育てへの負担感が軽減されたか(80%以上)を含め、対象となる児童の保護者へのアンケートにより本事業の在り方を検証する。		目標 ()	(80%)	()	()	()
			実績	98%			
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	対象となる児童の保護者135名にアンケートを実施した結果、75名から回答があり、うち74名(98%)が補助を受けたことで負担軽減に繋がったと回答した。これにより、成果目標達成率80%を上回っていることを確認した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	保護者が児童クラブの減免を利用しやすい環境をつくるのが重要なため、手続きの簡略化や、年度途中の支援を必要とする家庭への周知徹底が必要である。	周知活動を持続的にを行い、補助を行っている児童クラブと協力し、継続的かつ円滑に事業を実施する。
今後の取り組み方針		
児童クラブの連絡会にて、4月入所一斉受付に向けての事業周知・情報交換を行い、継続的かつ円滑に事業を実施する。 また、HPIにて周知を行うことで、補助を必要とする者へ事業周知の徹底を図る。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
4,308	4,308	3,446	862	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、当該事業の要綱に規定している児童クラブであり、妥当だと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算については当初の計画どおり執行されたと考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である各児童クラブに対する補助額は、保育料の1/2以下であること、また、保護者の減免額分を補助額として負担しているため妥当だと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、精算段階で目的に即しているか確認した。

市町村名	豊見城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	特別支援教育支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア		
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成28年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	小中学校に対し特別支援教育支援員を配置し、特別に支援を要する児童生徒の支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	114,576	74,053	67,252	52,975	67,157
		(b) 予算現額	77,449	54,954	36,369	42,226	44,977
		(c) 増減額(b-a)	▲ 37,127	▲ 19,099	▲ 30,883	▲ 10,749	▲ 22,180
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		77,449	54,954	36,369	42,226	44,977
	B. 執行済額		76,533	56,000	35,643	36,238	41,213
	うち交付金充当額		61,226	44,799	28,514	28,990	32,970
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.8%	101.9%	98.0%	85.8%	91.6%
予算の状況の説明		当初計画では特別支援教育支援員を30人雇用予定であったが、年度当初18人の任用でスタートし、最終的に26人の任用にとどまった。また、特別支援教育コーディネーターについても任用ができなかったことから、報酬及び期末手当について22,180千円減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	特別支援教育支援員の配置:30人	目標	(43人)	(26人)	(30人)	(30人)	
		実績	36人	27人	29人	26人	
	特別支援教育コーディネーターの派遣による教育相談、指導助言、面談等の実施	目標	(1人)	(1人)	(1人)	(1人)	
実績		1人	1人	1人	0人		
達成状況説明	市広報や市ホームページ、ふるさとハローワークを活用した求人のほか、退職教職員へ直接アプローチを行うなど特別支援教育支援員30人、特別支援教育コーディネーター1人の任用を目指したが、特別支援教育支援員については26人の任用にとどまり予定の30人を配置する事ができなかった。また、特別支援教育コーディネーターについては、最後まで配置する事ができなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	特別支援教育支援員の対応への満足度(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		86.60%	82.60%	85%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	特別支援教育支援員の支援を受けている児童生徒78人の保護者にアンケートを実施した結果、34人の保護者より回答があった。特別支援教育支援員の配置により児童生徒の成長に対し「大変満足している」が50%(17人)、「概ね満足」が35%(12人)となり、85%(29人)の方が満足している結果となった。保護者アンケートからは、「支援員を配置して頂いたことにより学校生活がより良く向上し、学力もつき、高校へ進学が叶いました。本当に有り難うございました。」や「この様な教育を与えてくださりとても感謝しております。支援があることで息子の心の成長も以前に比べ育まれております。」といったコメントがあった。						

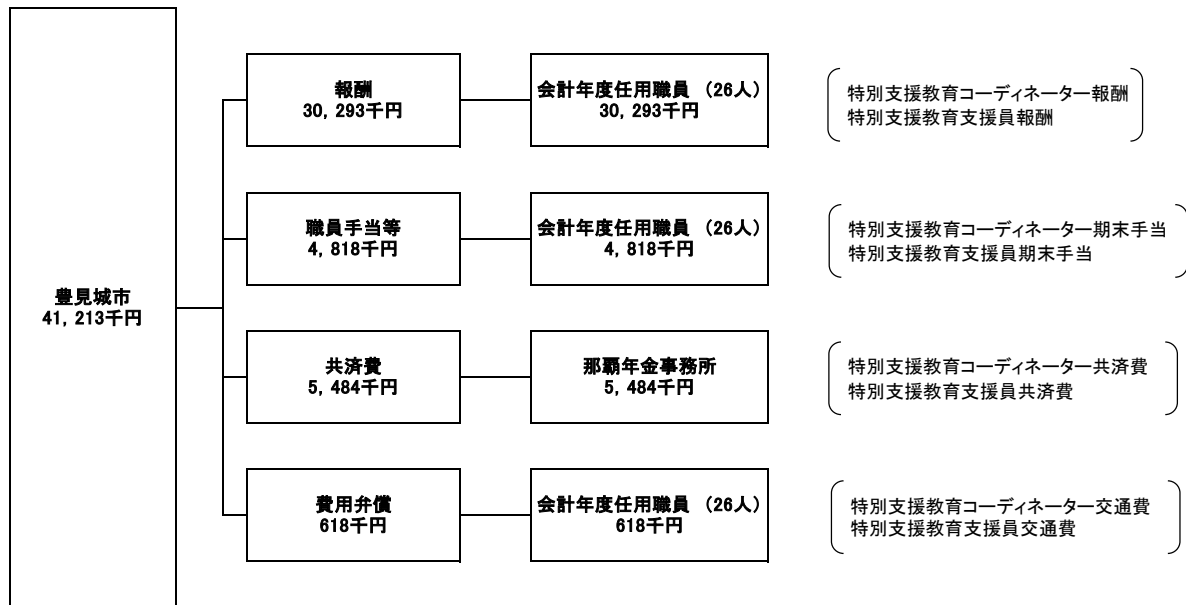
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員の配置に対する満足度が目標値を上回ったのは、支援員のほとんどが経験者であり、支援対象児童生徒の特性に合った支援が行えた結果だと考えられる。一方、支援員を計画どおり配置できなかった事により、支援を必要とする児童生徒に対する支援が十分に行き届かなかった事が懸念される。 ・特別な支援を必要とする児童生徒の地域小中学校への就学希望が増えており、今後も支援員の必要性が増してくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートによる支援員の配置に対し満足できていない保護者への対応が必要である。 ・当初計画どおりの支援員が確保できていないため、年度当初より支援員の確保が必要である。

今後の取り組み方針

特別支援教育支援員のスキル向上のための研修会を実施し、本事業の更なる充実を図る。また、支援員の人事評価と昇給制度を活用し、支援員の継続した雇用が実現できるよう務める。
WEB等を活用した新たな求人方法を取り入れ、幅広く採用情報を発信するとともに、年度当初から特別支援教育支援員を配置できるよう取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
42,339	41,213	32,970	8,243	1,126



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育支援員の採用については、面接を行って採用している。 ○予算規模は事業に見合った規模であると考える。 ○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	学力向上サポート事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ		
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	小中学校の教員の補助として学力向上推進補助員を配置し、きめ細かい支援を行うことで学力向上を図る。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(3年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	23,491	22,719	23,192	22,909	26,579
		(b) 予算現額	19,831	20,808	20,720	22,392	22,561
		(c) 増減額(b-a)	▲ 3,660	▲ 1,911	▲ 2,472	▲ 517	▲ 4,018
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		19,831	20,808	20,720	22,392	22,561
	B. 執行済額		19,205	20,915	20,014	21,614	22,103
	うち交付金充当額		15,364	16,732	16,011	17,291	17,682
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		96.8%	100.5%	96.6%	96.5%	98.0%
予算の状況の説明		当初計画では学力向上推進補助員を11人雇用予定であったが、計画どおり配置ができなかった期間があったため、欠員分の報酬等において4,018千円減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	学力向上推進補助員配置を11人配置する。 小学校:8人 中学校:3人		目標 (小学校:8人 中学校:3人)	(小学校:8人 中学校:3人)	(小学校:8人 中学校:3人)	(小学校:8人 中学校:3人)	
			実績 小学校:8人 中学校:3人	小学校:8人 中学校:3人	小学校:8人 中学校:3人	小学校:8人 中学校:3人	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	年度当初は2人欠員の状態が続いたが、9月以降は計画どおり11人を雇用し各校へ配置する事ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R3年度)
	沖縄県学力到達度調査での県平均正答率との差		目標 ()	(小:+2.3 中:+2.2)	(小:+2.8 中:+1.9)	(小:+2.6 中:+1.0)	(小:+2.6 中:+2.5)
	①小学校:+2.6ポイント ②中学校:+1.0ポイント		実績	小:+2.0 中:-0.1	小:+2.9 中:-0.7	小:+3.2 中:-1.2	
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	・小学5、6年生を対象に実施した学力到達度調査において、県平均57.2ポイントに対し、市平均が60.4ポイントとなり、+3.2ポイント市平均が県平均を上回ったが、中学1、2年生を対象に実施した学力到達度調査では、県平均51.0ポイントに対し、市平均が49.8ポイントとなり、-1.2ポイント市平均が県平均を下回る結果となった。 ・到達度調査結果をもとに学力定着度の分析を行い、授業改善へと繋げるため市教育委員会や各学校において学力向上推進施策を進めているが、年度間の定着度にバラつきが生じている。						

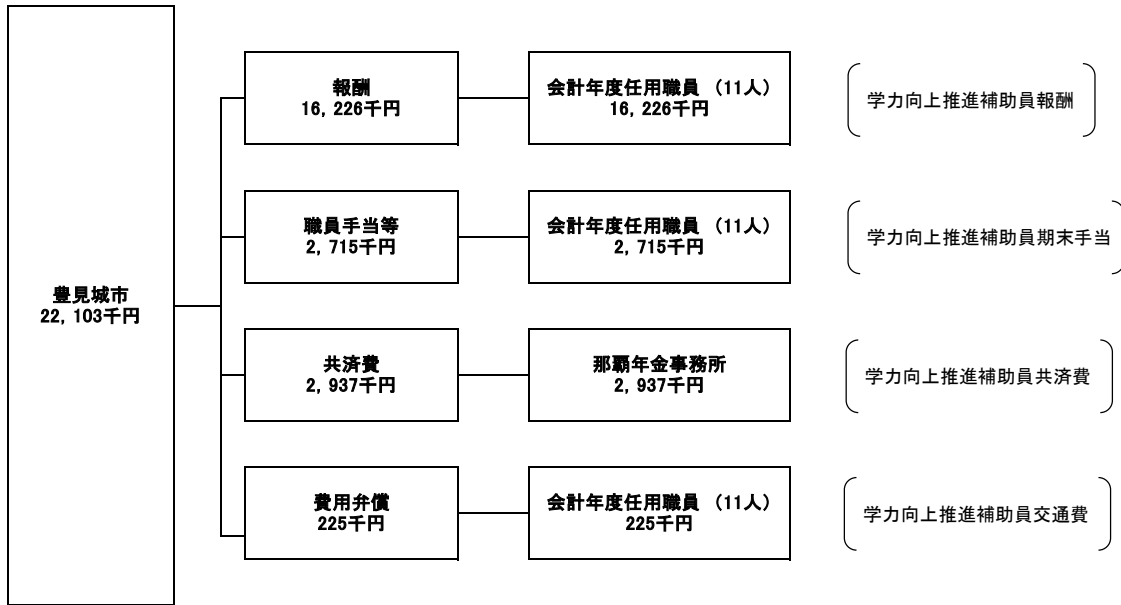
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の状況を確認すると、学力向上推進補助員1人の欠員状態が9月まで続いた学校の正答率が低くなっており、補助員配置の遅れが影響している事が考えられる。 ・算数・数学については、小学校高学年より苦手意識をもって進学している生徒も少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欠員が生じた際の学力向上推進補助員の配置に関しては、各校における学力の定着度等を勘案し、優先配置するなど配置誘導する必要がある。また、教諭との連携や教材研究等によるスムーズな授業運営の補助ができるよう補助員のスキル向上の取り組みが必要である。 ・小学校からの苦手意識を克服できていない生徒を把握する必要がある。

今後の取り組み方針

- ・年度当初の学力向上推進補助員配置計画段階において、各校の学力定着度を勘案して補助員の配置を行い、スムーズな授業補助へつなげる。
- ・教諭との授業連携をスムーズに行えるよう、教育委員会が進める学力向上施策の情報共有を図るとともに、学力向上推進補助員のスキル向上研修を実施する。
- ・個々人の学習進度に対応できるよう各クラスの学力状況や指導方法を共有する時間を設定する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
22,688	22,103	17,682	4,421	585



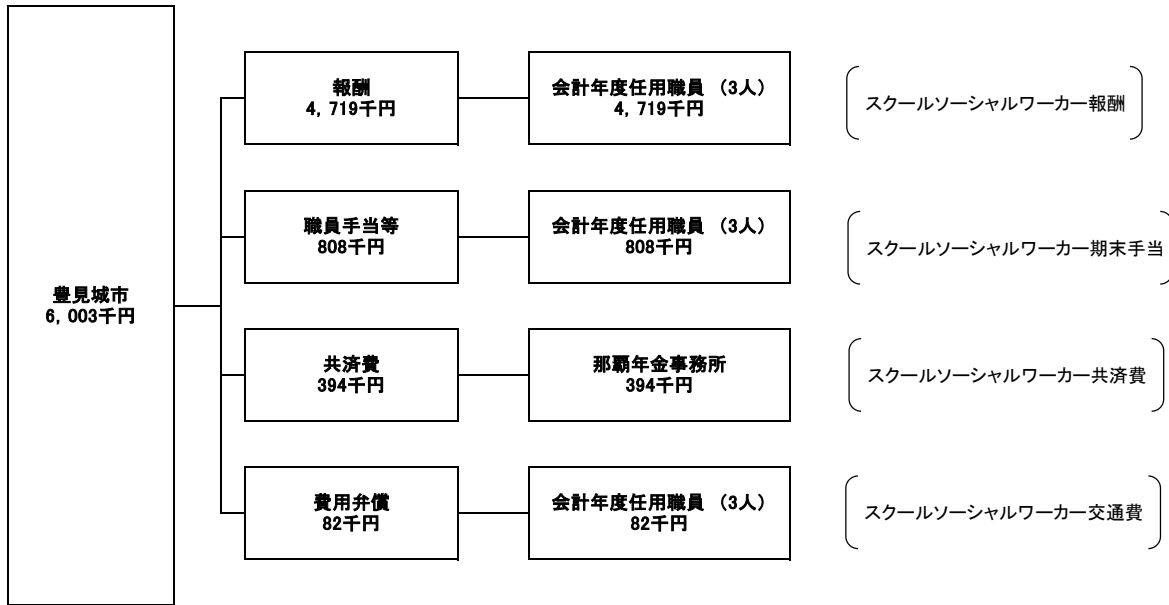
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上推進補助員の採用については、面接を行って採用している。 ○予算規模は事業に見合った規模であると考える。 ○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③	スクールソーシャルワーカー配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ		
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成27年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	問題を抱える児童生徒を取り巻く環境(家庭や友人関係等)の改善のためスクールソーシャルワーカーを配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,481	5,901	5,901	5,900	6,998
		(b) 予算現額	5,524	5,527	5,492	5,900	6,162
		(c) 増減額(b-a)	▲ 957	▲ 374	▲ 409	0	▲ 836
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		5,524	5,527	5,492	5,900	6,162
	B. 執行済額		5,495	5,503	5,443	5,706	6,003
	うち交付金充当額		4,396	4,402	4,354	4,564	4,802
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.5%	99.6%	99.1%	96.7%	97.4%
予算の状況の説明		年度当初の配置計画どおりスクールソーシャルワーカーを採用する事ができたが、スクールソーシャルワーカーの1人が社会保険料の負担対象外(年齢制限)となったこと等により不用額836千円が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	スクールソーシャルワーカーを3人配置する。市内小学校8校、中学校3校に対し巡回配置する。		目標 (3人)	(3人)	(3人)	(3人)	
			実績 3人	3人	3人	3人	
		目標 ()	()	()	()		
		実績					
達成状況説明	年度当初から計画とおり3人のスクールソーシャルワーカーを採用し、市内小中学校に巡回配置する事ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	支援対象ケース改善率:39.50% (改善ケース件数/支援対象ケース件数)		目標 ()	(32.00%)	(36.00%)	(39.50%)	()
			実績	41.66%	41.73%	61.74%	
			目標 ()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	要対協など福祉部門所管の会合への出席・情報交換を行う事でスムーズな支援へとつながり、支援対象件数115件中、問題が改善された件数34件、状況が好転した件数37件となり改善率61.74%で目標達成となった。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・状況が好転されたケースについても問題改善へとつながらず長引くケースがある事から引き続き支援が必要となる。 ・年々、支援対象案件も複雑化している事からスクールソーシャルワーカーによる継続支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーの経験値が高く、学校や外部機関との連携構築も非常にうまくいっている状況である。関係機関との更なる連携強化を図りながら、福祉部門における定期会合等へも参加し情報共有を図る必要がある。 ・支援対象ケースの複雑化もあり、スクールソーシャルワーカー間の情報連携に向けて、研修等を実施する必要がある。
	今後の取り組み方針	
<p>支援対象件数が増加傾向にある事から、スクールソーシャルワーカーのスキルアップにつながるような研修会や、福祉部門における定期会合等へも参加し情報共有を図り、スクールソーシャルワーカーが活動しやすい環境を整えていく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
6,199	6,003	4,802	1,201	196



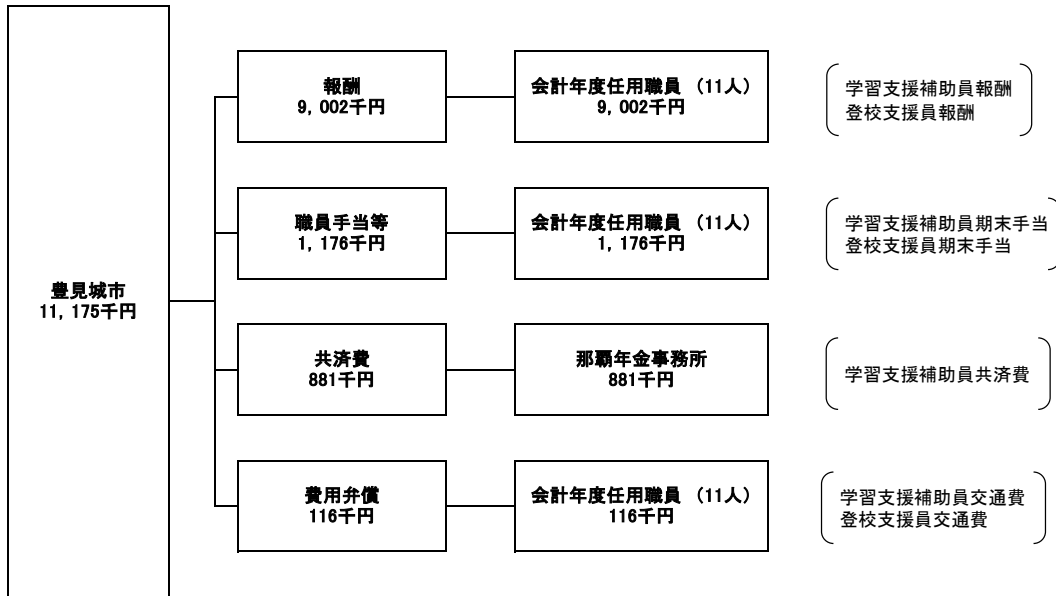
資金の用途の点検、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○スクールソーシャルワーカーの採用については、面接を行って採用している。</p> <p>○予算規模は事業に見合った規模であると考えられる。</p> <p>○費目・用途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認し適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-④	不登校等対策支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ		
担当部署名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進		
事業内容	不登校や問題行動を抱える児童生徒に対し、中学校及び適応指導教室に学習支援補助員を配置するとともに、小学校に対し登校支援員を配置する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(3 年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	20,344	14,139	10,049	15,112	
		(b) 予算現額	16,960	13,258	9,550	11,394	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 3,384	▲ 881	▲ 499	▲ 3,718	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	
	A. 計 (b+d)	16,960	13,258	9,550	11,394		
	B. 執行済額	16,696	12,931	9,456	11,175		
	うち交付金充当額	13,356	10,344	7,565	8,940		
	次年度繰越額	0	0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)	98.4%	97.5%	99.0%	98.1%		
予算の状況の説明	登校支援員については8人の配置を計画していたが、当初計画どおり配置ができなかった期間があったため、欠員分の報酬等において3,718千円減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	学習支援補助員配置数:3人 中学校:1人 適応指導教室:2人	目標	(中:3人 適:2人)	(中:3人 適:2人)	(中:1人 適:2人)	(中:1人 適:2人)	
		実績	中:3人 適:2人	中:3人 適:2人	中:1人 適:2人	中:1人 適:2人	
登校支援員配置数:8人 市内8小学校に1人ずつ配置	目標	(4人)	(4人)	(4人)	(8人)		
	実績	2人	4人	4人	8人		
達成状況説明	適応指導教室や中学校に配置する学習支援補助員については、年度当初より計画どおりの配置が行えたが、登校支援員については当初7人配置していたが、途中退職等もあり令和2年11月まで2人の欠員状態が続いたが、令和2年12月からは計画どおり8人の配置が行えた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R3年度)
	不登校児童生徒復帰率:20%以上	目標	()	(20%以上)	(20%以上)	(20%以上)	(30%以上)
		実績		17.77%	18.48%	38.16%	
		目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	・小学校では、令和2年度より全小学校に1人ずつの登校支援員を配置したことで、切れ目のない登校支援が行えた。その結果、不登校児童56人に対し9人(16%)が登校復帰した。また、中学校では不登校生徒96人に対し49人(51%)が登校復帰した。 ・適応指導教室や中学校配置の学習支援補助員により、学校や学級への登校が難しい生徒への学習支援を行う事ができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・不登校児童生徒が前年度に比べ12人も増加している中、今年度は対前年比約12%も登校復帰率を伸ばしたのは、全小学校への登校支援員配置による支援対象児童への切れ目のない支援のほか、適応指導教室における学習支援補助員による学習支援の結果である。</p>	<p>年度当初から登校支援員の配置に欠員が生じていたため、計画どおりの支援員配置の取り組み、切れ目のない支援を行う必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>不登校対策は初期段階から切れ目なく継続して支援する必要があることから、支援員の継続雇用へとつながるよう学校側と連携し働く環境の充実に努めるとともに、支援員採用に際してはWEB等を活用するなど幅広い層へ働きかけるよう取り組む。また、人事評価制度や昇給制度を活用しながら有能な人材を継続して雇用できるよう取り組む。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
11,459	11,175	8,940	2,235	284



資金の流 点検・ 評価目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○学習支援補助員や登校支援員の採用については、面接を行って採用している。</p> <p>○予算規模は事業に見合った適正な規模となっているか。</p> <p>○受益者との負担関係は妥当であるか。</p> <p>○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認し適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-⑤	英語教育推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	英語への興味・関心を高め、英語の学力向上に繋げるため、中学校へ外国人英語講師を配置し、小学校へ日本人英語講師を派遣する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	20,876	20,296	21,975	26,996	
		(b) 予算現額	20,876	20,296	21,423	25,962	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 552	▲ 1,034	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)		20,876	20,296	21,423	25,962	
	B. 執行済額		20,380	20,232	20,703	24,991	
	うち交付金充当額		16,303	16,185	16,562	19,993	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		97.6%	99.7%	96.6%	96.3%	
予算の状況の説明		年度途中の外国人英語講師の退職により配置できなかった期間の報酬等を354千円減額した。また、小学校への日本人英語講師派遣については、コロナウイルス感染症の影響により予定していた授業コマ数が実施できず委託料に一部不用額(680千円)が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	外国人英語講師(ALT)の配置:3人	目標	(4人)	(4人)	(3人)	(3人)	
		実績	4人	3人	3人	3人	
	日本人英語講師(JTE)の派遣:小学校8校	目標	(8校)	(8校)	(8校)	(8校)	
		実績	8校	8校	8校	8校	
達成状況説明	外国人英語講師については、年度当初より計画どおり3人の配置ができた。月途中で1名の退職があったが、翌月には新たに補充する事ができた。 日本人英語講師派遣については、計画どおり市内小学校全8校に対し講師を派遣する事ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	【小学生】 英語に対する興味・関心が高まった児童の割合73%以上	目標	()	(80%)	(74%)	(73%)	()
		実績		69.80%	70.79%	83.06%	
	【中学生】 沖縄県学力到達度調査(英語)での県平均正答率との差+4.2ポイント	目標	()	(+3.5ポイント)	(+4.0ポイント)	(+4.2ポイント)	()
		実績		+2.6ポイント	-2.5ポイント	-0.9ポイント	
	進捗状況説明	小学校でのアンケート調査では、前年度の満足度70.79%を大きく上回る83.06%となり、成果目標達成となった。一方、中学校では教科担任とALTによる指導方法の改善等により前年度に比べて県平均正答率との差を1.6ポイント縮める事ができたが、成果目標は未達となった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>小学生 日本人英語講師の派遣による英会話を中心とした実践的な授業展開が、児童の英語に対する興味・関心を高め、その割合が年々上昇していることが窺える。</p> <p>中学生 中学1年時には県平均正答率に対し0.2ポイントの差だが、中学2年時には正答率との差が1.6ポイントと拡大しており、中学2年の学力低下が確認できる。</p>	<p>小学生 教科化に伴い授業時数と指導内容が明確になった事から小学5、6年生を中心に講師派遣を行い、英語の基礎学力を上げ中学での学力向上に繋げる必要がある。</p> <p>中学生 中学2年時における県正答率との乖離を改善するため、ALTの活用方法や補修講座等の実施について検討を進めることで、学力強化に繋がると考えられる。</p>

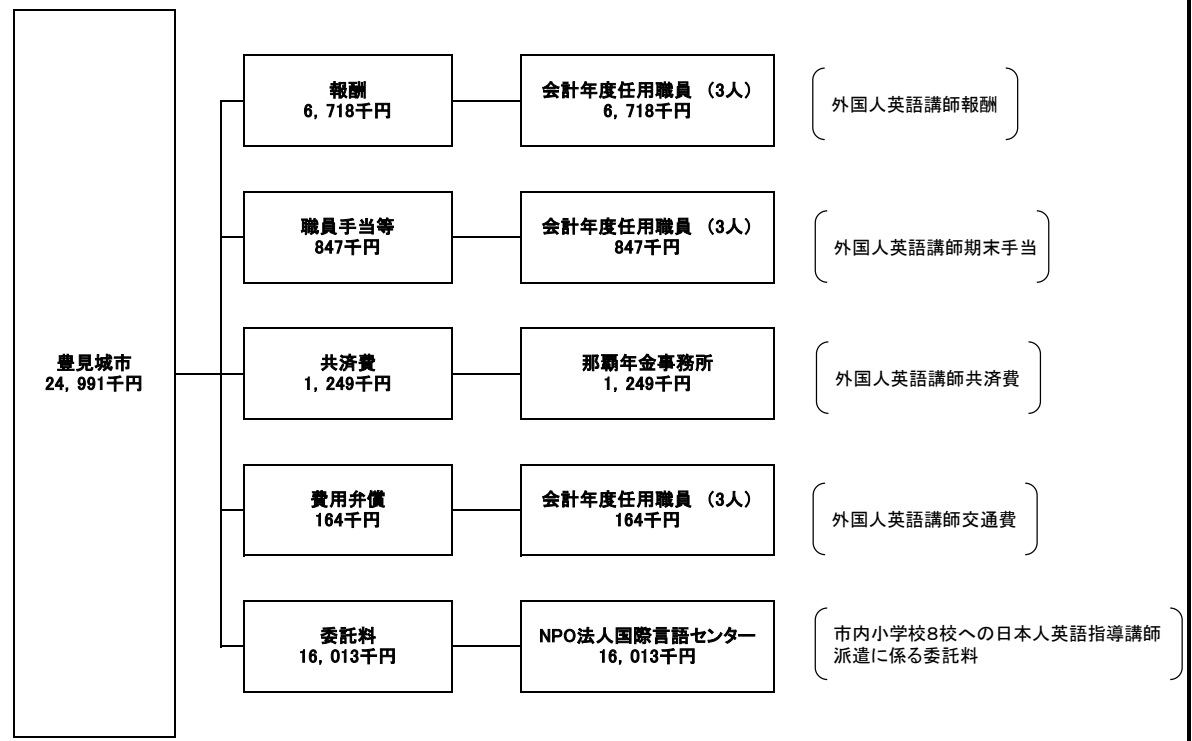
今後の取り組み方針

小学生
教科化を受けて担任教諭との連携がより必要となる事から、引き続き英語の授業時数に合わせた講師の派遣を進めることで調整していく。

中学生
・これまでの県学力到達度調査結果を踏まえ、教育委員会と学校が連携し学力向上施策を進めるとともに、ALTと英語担当教諭とも情報共有を図りながら、英語学力の向上に取り組む。
・単元ごとを実施する小テストや到達度調査などの結果を基に補習等を実施し学力の定着を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
25,264	24,991	19,993	4,998	273



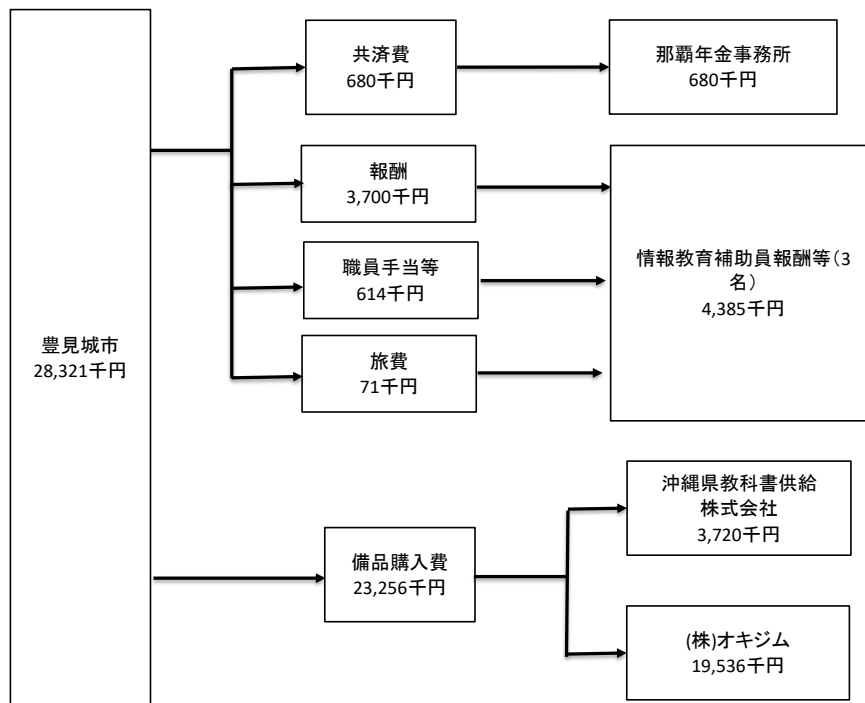
資金の流点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
○		支出先の選定方法は妥当か。	○外国人英語講師の採用については、面接を行って採用している。
○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○NPO法人国際言語センターへの委託については、プロポーザルにより事業者を選定した。
○		受益者との負担関係は妥当であるか。	○予算規模は事業に見合った規模であるとする。
○		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認し適正であった。

市町村名	豊見城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-⑥	ICT教育推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-(ア)		
担当部署名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度	令和1年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	分かりやすい授業により教育の質の向上を図り児童生徒の学力向上、情報活用能力の向上を図るため学校にICT機器を整備するとともにICT機器を活用した授業を支援するために情報教育補助員を派遣する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	56,763	45,905			
		(b) 予算現額	78,067	30,878			
	(c) 増減額(b-a)	21,304	▲ 15,027				
	(d) 繰越額	0	0				
	A. 計(b+d)	78,067	30,878				
	B. 執行済額	76,239	28,321				
	うち交付金充当額	60,991	22,657				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率(%) (B/A)	97.7%	91.7%				
	予算の状況の説明	一人一台端末の整備に伴い、パソコン教室の整備を取りやめ39,527千円減額した。 令和3年度より使用するデジタル教科書購入のため3,720千円増額した。 電子黒板について15教室増に伴い21,398千円増額した。 情報補助員について、計画どおりの配置ができなかったため、618千円減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	情報教育補助員派遣数:3人	目標	(3人)	(3人)	()	()	
		実績	2人	3人			
	電子黒板整備台数:15台	目標	(8台)	(15台)	()	()	
		実績	8台	15台			
	デジタル教科書:3校	目標	(小学校8校)	(中学校3校)	()	()	
実績		小学校8校	中学校3校				
達成状況説明	情報教育補助員については、7月より3人体制となり小中学校への支援を行った。 電子黒板については、児童生徒数の推移により15学級増となったため、小中学校に対し15台整備を行った。(指名競争入札) 令和3年度から使用されるデジタル教科書を市内中学校3校に対し整備を行った。(随意契約)						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	教員にアンケート調査を実施し、情報教育指導補助員の配置により、ICT機器の習熟度が上がったと答えた割合(80%以上)を含め、本事業のあり方について検討する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	()	()
		実績		81.00%	91.11%		
	児童生徒にアンケート調査を実施し、ICTを活用した授業が分かりやすかったと答えた割合(80%以上)を含め、本事業のあり方について検討する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	()	()
		実績		93.29%	93.05%		
	進捗状況説明	教員へのアンケート結果 教員に対するアンケートを実施した結果、自身のICT機器の習熟度が上がったと答えた教員は91.11%となり目標達成となった。 児童生徒へのアンケート結果 児童生徒に対するアンケート結果は、小学校で1238人にアンケート調査を実施した結果、93.87%の児童がICTを活用した授業が分かりやすかったと答えた。中学校では307人中、90.06%の生徒がICTを活用した授業が分かりやすかったと答えた。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	一人一台端末の導入により教員向けの研修(Google主催コア研修、GIGAスクールサポーターによる研修等)が増えていることもあり、教員の習熟度が上昇している。また、児童生徒がICT機器を活用した授業がわかりやすいと実感した割合は目標を達成しているが、前年度に比べ向上していない状況である。これは、教員のスキル向上に向けた研修が年度末に向けて多かったことによるものだと考えられる。今後は異動してきた教員に対しても情報補助員による助言及び補助を行うことでわかりやすい授業の底上げを行う必要がある。	授業実践に用いられる電子黒板や操作用PCが全ての教室へ配置されているほか、令和2年度中に児童生徒用端末が配置された。今後は、児童生徒が入力したデータを学級全体で共有し、普段発表を行わない児童にも授業への参加を促すため、教員に対して端末の活用方法の提案や操作補助を行うことで、教員のスキルアップを図る。
	今後の取り組み方針	
児童生徒用端末の配置、電子黒板の設置、通信環境の充実といったハード面の整備が完了したため、今後はデジタル教材の充実やハード面の維持更新を行うとともに、教員に対して授業で利用できるICT機器の活用方法を提案し、またそのサポートを行うことで、教員のICTスキル及びITリテラシーの更なる向上を目指す。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
28,449	28,321	22,657	5,664	128



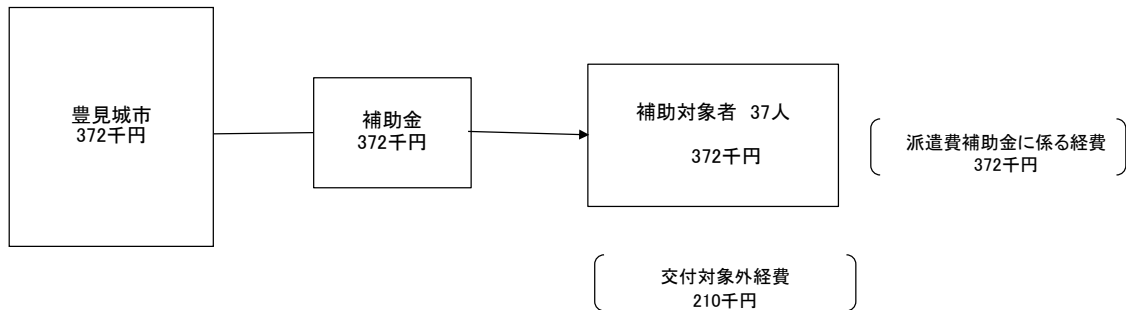
資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○電子黒板の購入先は指名競争入札により適正に選定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○デジタル教科書は、採択した教科書の販売元が限られているため随意契約としている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的達成のために必要であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-⑧	児童生徒派遣費補助事業(部活外)	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-ア			
担当部署名	教育部 生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域を大切に、誇りに思う健全な青少年の育成		
事業内容	本市の児童生徒がスポーツ及び文化活動において、県代表として県外大会へ出場する際に必要な派遣費の助成を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,200	6,840	4,320	5,400	5,400
		(b) 予算現額	6,676	6,840	4,320	6,542	1,440
		(c) 増減額(b-a)	▲ 524	0	0	1,142	▲ 3,960
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	6,676	6,840	4,320	6,542	1,440
		B. 執行済額	5,660	5,920	3,135	4,811	372
		うち交付金充当額	4,527	4,735	2,508	3,848	297
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	84.8%	86.5%	72.6%	73.5%	25.8%
	予算の状況の説明	新型コロナウイルスの影響により、全国大会等が相次いで中止となったため当初見込み派遣数を大幅に下回った。(当初:300人 9,600千円 ⇒ 実績:37人 372千円)					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	児童生徒派遣費の一部を助成	目標	(派遣費の一部助成)	(派遣費の一部助成)	(派遣費の一部助成)	(派遣費の一部助成)	
		実績	派遣費の一部助成	派遣費の一部助成	派遣費の一部助成	派遣費の一部助成	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	新型コロナウイルス感染症の影響により、年度上旬については県外大会が中止となる中、各大会関係者による感染症対策等がとられ、県外大会が開催されることができた。これに伴い、県外大会に出場する児童生徒に対し、一部派遣費補助を行う事ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	対象児童の視野が広がったか(80%以上)を含め、児童生徒及び保護者へアンケートにより、本事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		99.10%	98.90%	96.29%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	・新型コロナウイルスの影響により、派遣費補助をおこなった児童生徒は37人であった。このことにより当該児童生徒に対して派遣費補助を行い、本市の人材育成に役立てる事ができた。補助を行った対象者数は少なかったが、派遣費補助についての問い合わせは前年度より多くあったため、周知は十分出来たと思われる。 ・対象児童の視野が広がったかについて、派遣補助児童生徒を対象にアンケートを実施した。37人からの回答を集計した結果、「今回の大会に出場して技術面に関する課題が見つかった。」等に対し「はい」と97.29%の回答を得ることができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響による全国大会中止となる事態が、今後も発生するような状況下においては、事前に大会中止の情報収集が上手くできないか検討する必要がある。</p>	<p>広報誌や市ホームページ等による周知方法を継続するとともに、市内各学校からも協力を得て、県外大会派遣費補助がある旨の内容を保護者へ周知してもらうよう依頼する。また、保護者よりコロナ禍での県外大会派遣に関する相談を受けた場合は、大会運営本部から発出されている情報がないかHPを確認し、当該派遣費補助が行えるかを早期に判断することで事業の円滑な実施に取り組む。</p>
今後の取り組み方針		
<p>広報誌や市ホームページ等の掲載を続け、学校への案内や派遣がかかった大会主催者への周知等を行っていくことで、当該事業がより活用しやすくなるよう取り組む。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
582	372	297	75	210



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助(支出先)は交付要綱に沿って行っており、選定方法は適正と考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、対象者からの申請に基づいた規模になっているため、適正である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○交付金での対象は、航空運賃1/2であり、それ以外については、市負担、保護者負担となっているため、受益者との負担関係は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○補助は交付要綱に沿って行っており、費目・使途は適正と考えている。

市町村名	豊見城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	文化財案内表示板設置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア		
担当部課名	教育部 文化課	事業実施(予定)年度	令和元年度～令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用したまちづくり		
事業内容	豊見城市に数多くある文化財等の歴史資産への理解・関心を深め、保全・継承を促すことを目的に、文化財に至る案内表示板を設置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,412	5,412			
		(b) 予算現額	5,412	4,497			
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 915			
		(d) 繰越額	0	0			
	A. 計(b+d)		5,412	4,497			
	B. 執行済額		5,324	4,497			
	うち交付金充当額		4,259	3,597			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		98.4%	100.0%			
予算の状況の説明		入札の結果、契約額が積算よりも減となったことから不用となる915千円を3月補正で減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	文化財案内表示板 設置30基	目標	(30基)	(30基)	()	()	
		実績	34基	33基			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	各地域の文化財ごとに案内表示板を制作し、文化財の場所が、来訪者にひと目で分かるよう効果的な設置場所を検討した結果、文化財に至る道路に33基設置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	「豊見城市文化財マップ」の年間アクセス数 25,550回/年	目標	()	(25,550回)	(25,550回)	()	()
		実績		50,945回	59,162回		
	文化財巡り参加者 30名/年	目標	()	(30名)	(30名)	()	()
		実績		400名	30名		
	進捗状況説明	ホームページ上に文化財の案内マップを公開しており、案内表示板を設置することでアクセス増加につながり、年間アクセス数目標値を超え、前年よりも8,217回増加し、59,162回となった。文化財を訪れやすい環境を市民に認知してもらうため、ガイドの会による巡検に当初目標の30名が参加した。効果的な設置場所を検討した結果、当初目標から3基増となる33基の設置となった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ上で公開している文化財案内マップは、各年度とも年間アクセス数の目標を大きく越えており、文化財への興味関心が高いことが窺える。 ・文化財巡りは参加者の目標値を達成しているが、新型コロナウイルス感染症の流行により、昨年度と比較して参加実績値が減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財案内マップへのアクセス数増を図るため、案内表示板から直接案内マップへアクセスできるQRコード等を貼付し、アクセス増に取り組む。 ・手指消毒やマスクの着用を心掛け、感染症対策を十分に行った上で、文化財巡り等を行っていく。

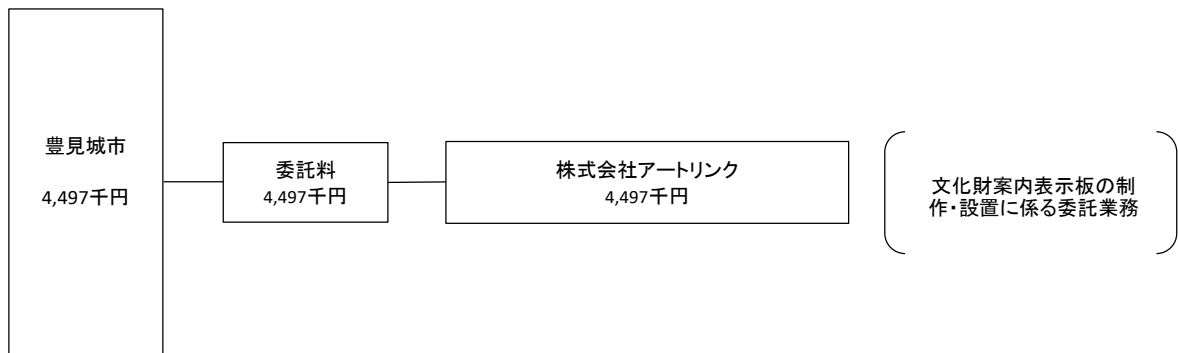
今後の取り組み方針

・案内表示板で周知できる文化財以外にも、市内には数多くの文化財が所在しており、そうした場所へも訪れやすいよう文化財案内マップの充実を図る。また、各地域毎の文化財マップ(リーフレット等)の作成にも取り組む。

・文化財巡りの参加人数の増を図るため、文化課による巡検等の開催に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
4,497	4,497	3,597	900	0



資金の用途の点検、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は、適切に予算を設定している。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-②	デジタル博物館事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア		
担当部課名	教育部 文化課	事業実施(予定)年度	令和2年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用したまちづくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	地域の歴史・文化に育まれた地域知的資産情報(文化財、博物館資料、写真資料、口承文芸資料等)に常時アクセスできる環境を整え、市民・学校・観光客等に豊見城市の魅力を発信するとともに地域文化の振興に寄与する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(3年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	31,994				
		(b)予算現額	31,994				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	0				
		A.計(b+d)	31,994				
	B.執行済額		31,657				
	うち交付金充当額		25,325				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		98.9%				
予算の状況の説明		適正な積算と計画の結果、事業計画通りに執行を行えた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	収蔵アナログ写真資料のデジタル化作業 10万点	目標	(10万点 1,050点)	()	()	()	
		実績	10万点 1,050点				
	収蔵品写真撮影 1,050点	目標	(7地域)	()	()	()	
		実績	7地域				
地域資料収集作業 7地域	目標	(7地域)	()	()	()		
	実績	7地域					
達成状況説明	収蔵写真資料のデジタル化はネガ資料を中心に基礎整理と分類後、年代順にデジタル化。その後データベースを作成した。 収蔵品写真撮影は、学芸員が撮影や計測のマニュアルの整備を行ったうえで、撮影・計測を行った。 地域資料収集作業は、地域の自治会と協働の上で収集作業にあたり、自治会や個人提供の写真と情報を集約した。						
成果目標(指標)及び進捗状況		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(R3年度)	
	収蔵アナログ写真資料のデジタル化作業 10万点の完了	目標	()	(10万点 1,050点)	()	()	(10万点 1,050点)
		実績		10万点 1,050点			
	収蔵品写真撮影(1,050点)の完了	目標	()	(7地域)	()	()	(8地域)
		実績		7地域			
	地域資料収集作業 7地域の完了	目標	()	(7地域)	()	()	(8地域)
実績			7地域				
進捗状況説明	所蔵写真資料のデジタルは予定通り10万点のデジタル化が完了した。 収蔵品写真撮影は、学芸員が撮影や計測のマニュアルの整備を行ったうえで、予定通り1,050点完了した。 地域資料収集作業は、地域の自治会と協働の上で収集作業にあたり、予定通り7地域で収集活動を行い、過去の調査地も含め10地域の報告書を作成した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 情報の聞き取りなどが高齢者中心であるため、十分に感染症対策を講じた上で事業を進める必要がある。 地域住民と協働で収集活動を行う際、最終的な完成形が伝わりづらい場面があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策はその都度最新の情報を根拠に十分な方法で対策を講じる。 令和2年度の成果物を基に、より具体的な完成イメージを地域住民と共有する。

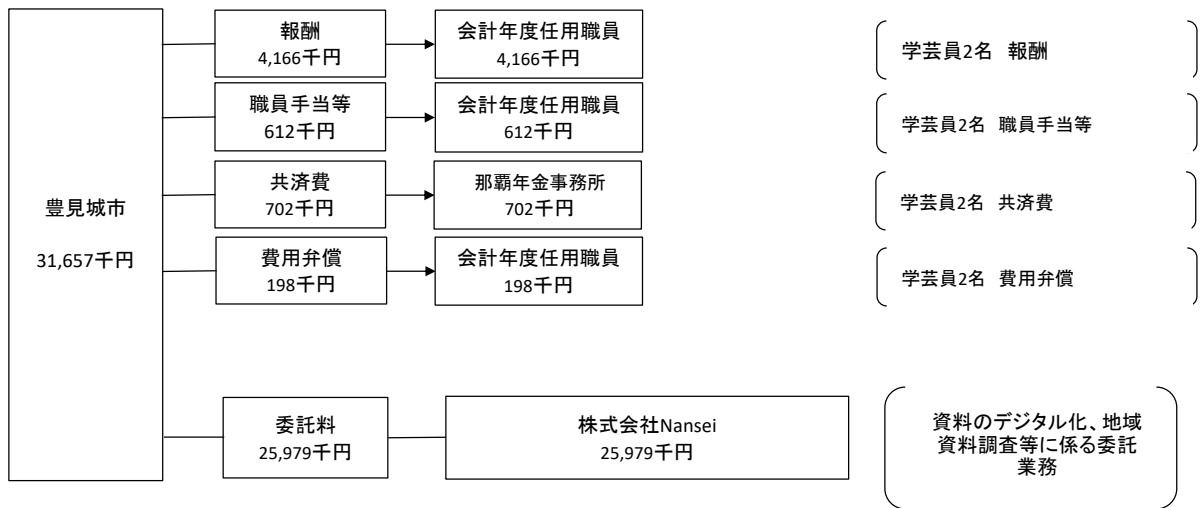
今後の取り組み方針

・令和3年度も引き続き、計画したデジタル化作業について効率的・効果的な方法で事業を実施するとともに、令和3年度開始の口承文芸(民話)資料のデジタル化についても計画に基づいた事業実施に取り組む。

・写真以外の地域資料や各機関の戦後資料が新たに見つかっており、公開条件を確認し、デジタル化と公開が可能か検討していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
31,813	31,657	25,325	6,332	156



資金の流 れの点 検・費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、公募型プロポーザル方式によって適切に選定している。 ○予算規模は、適切に予算を設定している。 ○予算の費目・用途については、事業に必要最低限に設定し、執行している。委託業務完了段階で検査を行っており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

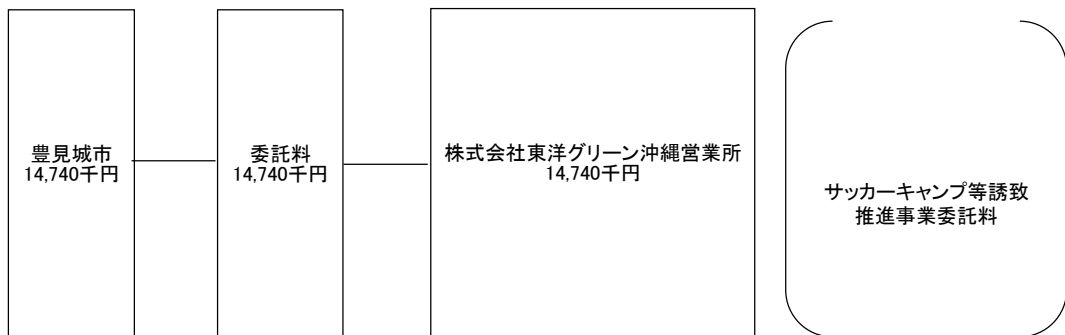
市町村名	豊見城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	サッカーキャンプ誘致推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア		
担当部課名	教育部 生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	令和元年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	サッカーキャンプ受入に必要な芝生の維持管理委託を行い、サッカーキャンプ誘致に向けた施設の受入体制を構築することで継続的なサッカーキャンプ誘致を実現する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	11,330	14,740			
		(b) 予算現額	9,790	14,740			
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,540	0			
		(d) 繰越額	0	0			
	A. 計(b+d)		9,790	14,740			
	B. 執行済額		9,790	14,740			
	うち交付金充当額		7,832	11,792			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		サッカーキャンプ誘致に向けた芝生の草種変更及び管理について、専門業者委託を行い当初事業計画どおりに予算を執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	サッカーキャンプ受入に必要な芝生の維持管理及び草種変更	目標	芝生の維持管理及び草種変更	()	()	()	()
		実績	芝生の維持管理及び草種変更実施				
		目標	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	現状のサッカーキャンプ誘致に不向きなセントオーガスチン苗からサッカーキャンプの受入に必要なティフトン苗への草種変更の割合を増やし、通常のサッカー利用と併せて、陸上競技場フィールド部分の7割程度に実施しつつ、年間を通して維持管理を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	サッカーキャンプ誘致件数:2件/年	目標	()	()	(2件)	(2件)	()
		実績			2件	2件	
	【参考指標】 サッカーキャンプ受入件数	目標	()	()	()	(2件)	()
		実績				2件	
進捗状況説明	【R2年度】 ・サッカーキャンプの受入に必要な芝生の草種変更を実施し、令和3年1月～2月にかけて2件のプロサッカーチームの受入を実施した。 ・受入クラブチームについて、コロナ対策の観点から無観客・歓迎セレモニー・スポーツ少年団との交流等を中止したが、受入状況のHP掲載によるネットでのPRや特産品贈呈によるPRを実施した。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(芝生管理業者の選定) ・サッカーキャンプの受入れについては、受入可能な芝生の草種変更及び管理に対する技術と実績がある業者の選定が必要であると考えられる。	(芝生管理業者の選定) ・サッカーキャンプ受入可能な芝生の草種変更及び管理に対し、技術と実績がある業者の選定を行う。
	(キャンプ受入の定着化) ・今後のキャンプ受入実施については、継続的なクラブチームと市民交流等を行うことで、より地域に密着した受入関係の構築に繋がると考えられる。 ・Jリーグのオフシーズン(夏場)における当施設の利用について検討する。	(キャンプ受入の定着化) ・受入関係の構築のために、市民との交流や合宿受入の際の周知を図り、機運を高めるとともに、受入チームの要望等を実現し、継続的な受け入れに繋げる。 ・夏場のオフシーズンの利用についても、Jリーグキャンプの受入実績をPRし、域外の受け入れに繋げる。

今後の取り組み方針	
<p>・持続可能なサッカーキャンプ受入に向けて、受入可能な芝生への草種変更を行える、専門的な知識と技術を持つ業者を選定するとともに、サッカーキャンプ受入の際に市内スポーツ少年団とクラブチームとの交流を検討する。</p> <p>・受入クラブチーム情報を市HPで積極的に発信し、市民の受入機運を高め、継続的な受け入れ体制に繋げる。</p>	

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
14,740	14,740	11,792	2,948	0



資金の流れ、費目 の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○芝生の変更という特殊な作業に対して専門的な知識と技術を必要とすることから地方自治法施行令167条の2の1項第2号より随意契約にて実施した。</p> <p>○事業執行率100%で、必要かつ適正な規模であった。</p> <p>○委託費については検査を実施し、合格を受けていることから事業目的に必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	